

スクミリンゴガイ

「ジャンボタニシ」の名前で、よく知られています。

南アメリカ原産の外来種で、生態系や農業へ被害を与える可能性があるため。「要注意外来生物（ようちゅういがいらいせいぶつ）」に指定されています。

1981年に台湾から長崎県や和歌山県に食用として導入され、その後35都道府県に養殖場が出来ました。養殖場から野外へ逃げ出した個体が定着し、各地で増加しています。

殻の高さは8 cm程度まで大きくなります。主に田んぼや水路、池などに生息しています。低温には弱いですが、乾燥に強く、土の中に潜り、水が無くてもその状態で半年以上生き延びることが出来ます。

主に植物食で、柔らかい草を好みます。田んぼでは、植えたばかりの稲を食べてしまいます。在来のタニシとエサの競争により、在来のタニシを追いやっています。

繁殖期は4月～10月と長く、イネやコンクリートの壁などに、鮮やかなピンク色の卵を産み付けます。



↑卵が産み付けられている様子

富士市での現状

浮島ヶ原に広く分布しています。

スクミリンゴガイを確認したメッシュ

